



北中だより

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No34
文責 芹川博文
12月24日(火)

「人は思い描いた通りの自分になる」 ～ この1年を味わい、新しい1年を思い描く ～

【※冬休み前の全校集会でお話した内容をお伝えします。】

あなたは、「北中生の自慢は何ですか？」と聞かれたら、何と答えますか。「木造校舎」「菊づくり」と、答える人がいるかもしれません。しかし、「北中の自慢」でなく、「北中生の自慢」だったら何と答えるでしょうか。私は、それが「伝統」であり、「プライド」に繋がるものと思います。

10月17日の後期始業式で、皆さんに「表現力と調整力」の話をさせていただきました。特に挨拶という表現力を本気で磨いてほしいと伝えました。今日、後期の折り返しを迎えるにあたり、皆さんの姿を見た時、確かに「北中のあいさつがバージョンアップした」と感じます。これは、簡単なことではありません。4月からずっと立ち止まって挨拶してくれる生徒がいます。目を見て挨拶してくれる人、授業の始めと終わりに大きな声で挨拶してくれる人、一人一人が意志をもって頑張ってきた地道な姿があります。

また、12月になっても「My color」を鮮やかに放つ現生徒会による挨拶コンクールの呼びかけ。そして、その呼びかけに賛同する周りの盛り上がり。更に、新生徒会の役員選挙での立候補者の多さと朝の挨拶運動。一人一人の勇気や意志による表現力、お互いに磨き合い認め合う調整力が輝いていました。その一つの成果が挨拶となって表れた後期前半だったと思います。

是非、この挨拶を新たな「伝統」にしてほしいし、「プライド」に繋げてほしいと願います。学年ごとの「My color」も鮮やかになってきたと感じます。私から見た時の各学年の特徴的な力は、一言でいえば次のとおりです。

- 1年生・・・「新しい風を起こす力（発信力）」
- 2年生・・・「協力して解決していく力（団結力）」
- 3年生・・・「人のために役立つ力（社会性）」



そんな皆さんを誇りに思います。そして、どこに行っても自分が出せる人になってほしいと願います。北中という「井の中」だけでなく、地域に出ても、県内外でも、国内外でも、どこに行っても、出会う人と挨拶を交わし、自分で考えて行動し、お互いに磨き合いながら生きていく、そんな人になってほしいと願っています。

2024年（令和6年）は、あと一週間で終わります。2025年（令和7年）になります。皆さんは、どんな1年にしたいですか。そして、1年後、どんな自分になっていたいですか。是非、1年後の自分の姿を思い描き、具体的に小さなことから実行していきましょう。「人は思い描いた通りの自分になる」というナイチンゲールの言葉もあります。

最後に、新しい年を迎えるにあたり、一つおススメをします。日記のススメです。この中にもすでに書いている人がいるかもしれません。日記は、自分を振り返ったり思い描いたりするのに最適です。ちなみに私は10年日記をつけています。今年は8年目の段を書いています。もしも皆さんが10年日記を買って始めるとしたら、10年後に何が書いてあるかわクワクワですね。ちなみに、3年日記や5年日記もあります。

日記に書き留めるかどうかに限らず、あなた自身のオリジナルストーリーを描いてください。

その家、その地域に息づく文化 新しい年の迎え方

～ 懐かしく思い出される正月の風景から ～

菊鹿町で育ったからか、我が家だけだったのか、子どもの頃は様々な正月の「文化」（しきたり）がありました。例えば、栗ばし。「縁起もんぞ。芽の出（ず）っとぞ。」という父親手作りの栗ばしは、太くて食べづらかったことを懐かしく思い出します。母親は大みそかの夜12時ギリギリまでは忙しくするものの、「元日の1日は、掃除も洗濯も一切してはならない。料理も包丁は使わない。」という「文化」がありました。正月ぐらいは体を休める意味もあったとか。ご飯も炊かず、雑煮とおせちのみ。ちなみに、雑煮の具や餅の形は、全て角のない丸型でした。

元日は風呂にも入りませんでした。初風呂は1月2日の朝と決まっており、その日は朝から子どもは習字を書き、ご飯と魚を朝から食べました。

あの頃から約50年の時が流れました。北中の保護者の皆様にはどんな思い出がありますか。今もその家や地域独特の正月「文化」を大切にされているかもしれません。そして将来、子どもたちも、「懐かしいなあ」と、正月の過ごし方を懐かしむ日が来ることでしょう。

それでは少し早いですが、今年も大変お世話になりました。皆様、よいお年をお迎えください。